

## 外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/05/02

### 米雇用統計が中心ではあるものの

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">豪ドル/円</a>	➡	RBAは金利よりも声明文か 予想レンジ: 86.00 ~ 90.00 円	2 - 3
<a href="#">NZドル/円</a>	➡	NZ第1四半期失業率に注目 予想レンジ: 64.20 ~ 67.20 円	4 - 5
<a href="#">ランド/円</a>	➡	南アも第1四半期失業率に注目 予想レンジ: 12.10 ~ 12.50 円	6 - 7
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>	一週間の予定を一覧で表示		8 - 9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします

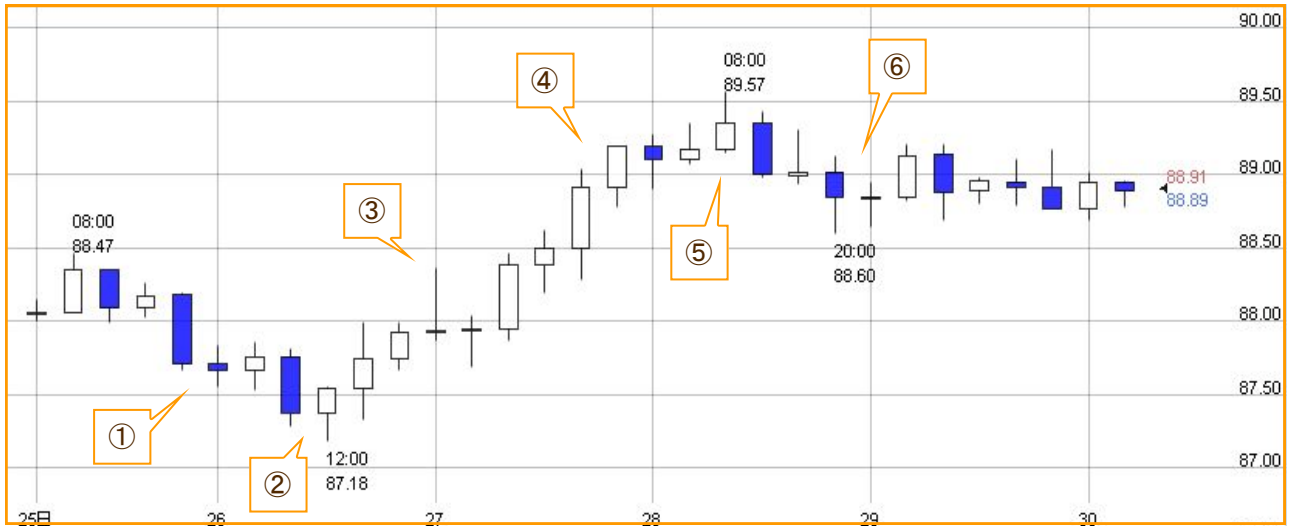


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD/JPY

## 豪ドル/円 4/25～29の主な推移



<b>4/25</b> Monday	NYダウ平均や原油価格の下落によるリスク回避の動きに加え、米長期金利の低下を背景にしたドル/円の下落も重なると、豪ドル/円は87.53円まで下落した(①)。
<b>4/26</b> Tuesday	日経平均株価や原油価格の下落を背景に、豪ドル/円は一時87.18円まで下落(②)。しかし日経平均株価が下げ止まった事や、時間外のNYダウ平均先物や原油相場が反発した事を手掛かりに、豪ドル/円は値を戻した。また事前予想を上回る米4月消費者信頼感指数や、好調な米企業決算を背景にNYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円は88.36円まで上昇した(③)。
<b>4/27</b> Wednesday	豪第1四半期消費者物価指数は前期比+1.6%、前年比+3.3%といずれも予想(同+1.2%、同3.0%)を上回ると、豪ドル買いが強まった。その後格付け会社S&Pが本邦の格付け見通しを従来の「安定的」から「ネガティブ」へと引き下げた事を受けて円売りが強まると、豪ドル/円は88.46円まで上昇した(④)。その後、米連邦公開市場委員会(FOMC)が、保有証券の償還資金を米国債の購入に再投資することを継続すると発表し、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長は会見にて、米経済の先行きに対して慎重な見方を示した。これを受け市場では米国の緩和的な金融政策が続くとの見方から、NYダウ平均が上昇し豪ドル/円は続伸した。
<b>4/28</b> Thursday	朝方は前日のNYダウ平均の上昇を好感した豪ドル買いに加え、原油先物の上昇も重なると、一時89.57円まで上昇した(⑤)。しかし米第1四半期国内総生産(GDP)などが予想を下回ると、ドル/円の下げに連れる形で豪ドル/円は88.60円まで弱含む場面も見られた(⑥)。

## 上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## AUD/JPY

## 今週の見通し

今週の豪ドル/円は、米国での緩和的な金融政策の長期化観測を背景に、NYダウ平均が年初来高値の更新を続けていることから、底堅い推移が見込まれる。ただ株価は4月29日時点で既に2008年5月以来の高水準に達しており、仮に調整局面入りとなる場面では豪ドル/円には下げ圧力が掛かる場面も想定される。

また3日には豪州にて、豪準備銀行(RBA)理事会での政策金利発表が予定されている。現時点では政策金利の据え置き予想がコンセンサスとなっており、その後の声明文に注目したい。もし、RBAが4月27日に発表された第1四半期消費者物価指数の上昇を受けて早期利上げを示唆するようだと、豪ドル/円は強含む展開も予想される。

その他、6日には米4月雇用統計の発表が予定されている。仮に安定的な雇用の増加を示す内容となれば、米雇用の回復期待から株価が上昇し、豪ドル/円は上値を試す動きが予想される。一方で失業率の上昇など雇用状況の悪化を示す内容となれば、株価下落に連れて豪ドル/円は弱含む場面も予想される。

(川畑)

(予想レンジ: 86.00~90.00 円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

— 20日線

— 60日線

— 200日線

〔ボリンジャーバンド〕

— +2シグマ

— -2シグマ



●AUD/JPY 4/29週足引値:88.89円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

豪ドル/円は85.99円(4/18)まで下落するも、その後引値レベルにて20日線を下値に反発、4/28には一時89.57円まで上昇した。ただ上値はバンド上限で押さえられており、今週はバンド上限や90円の節目、もしくは引値レベルで20日線かの、どちらかを突破した方に方向感が出そうである。

ボリンジャーバンドは4/29現在、上限:89.72円~下限:86.49円と、バンド幅は先週に続き縮小に向かっている。またバンド上限はほぼ横ばいにつき、90円の台と共に抵抗となることが予想される。

移動平均は20日線(4/29時点では88.11円)、60日線(同、84.73円)、200日線(同、81.77円)いずれも上向き。だが、ローソク足が引値レベルで20日線を下抜けるようだと、相場は下値を試す可能性もある。

上値ポイントは①89.75円(バンド上限)~90.00円(4/11高値)、②90.44円(2010年高値88.04円~同年安値71.85円の値幅16.19円を、3/17安値74.25円に加えた値)、③91.70円(4/29週時点での、週足上での2007年高値107.79円と2008年高値104.43円を結んだ線)であり、下値ポイントは①引値レベルで88.11円(20日線)、②85.99円(4/18安値)、③84.73円(60日線)である。(川畑)

## NZD/JPY

## NZドル/円 4/25～29の主な推移



4/26 Tuesday	トリシェ欧州中銀(ECB)総裁のユーロ高を牽制したと受け止められる発言を手がかりに、市場ではユーロ売りが強まり、ユーロ売り・円買いの動きとなった。NZドル/円はこの円買いに連れて65.09円まで下落した(①)。
4/27 Wednesday	格付け会社S&Pが本邦の格付け見通しを従来の「安定的」から「ネガティブ」へと引き下げた事を受けて円売りが強まり、NZドル/円は上昇した。また欧州市場にて、発表前に「予想よりも悪い結果になる」との思惑が広がっていた英第1四半期国内総生産(GDP)速報値が予想通りとなった事を受け、ポンド買い・円売りが強まった。NZドル/円はこの円売りに連れる形で、その後66.37円の高値をつけた(②)。
4/28 Thursday	NZ準備銀行(RBNZ)は市場の予想通り、政策金利の2.5%据え置きを決定。しかしその後の声明にて「NZ経済の見通しは不透明」と述べた他、NZドル高をけん制する内容も含まれていたことが手掛かりとなり、NZドル/円は下落。また欧州勢がNZドル売りの材料として蒸し返すと、NZドル/円は続落。さらに米第1四半期国内総生産(GDP)などが予想を下回り、ドル/円の下げに連れる形で、NZドル/円は一時65.03円まで値を下げた(③)。
4/29 Friday	NZ3月貿易収支は+4.64億NZドルと予想(+2.0億NZドル)を上回った。これを受けNZドル買いが強まり、NZドル/円は一時65.67円まで値を上げた(④)。

## 上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す  
→主要国株価の上昇
- ・NZの追加利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価の下落
- ・NZの追加利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## 今週の見通し

今週のNZドル/円は、6日の米4月雇用統計の発表に注目したい。仮に安定的な雇用の増加を示す内容となれば、米雇用の回復期待から株価が上昇し、NZドル/円は上値を試す動きが予想される。一方で失業率の上昇など雇用状況の悪化を示す内容となれば、株安からNZドル/円は弱含む場面も予想される。

また、NZでは5日に第1四半期失業率の発表が予定されている。本稿執筆時点での事前予想は6.7%と、今年2月に発表された前回の第4四半期(6.8%)より若干の改善が期待されている。なお前回は事前予想(6.5%)より悪化したことを受けて、NZドル売りが強まる場面が見られた。今回も予想より悪化するようだとNZドルは売られやすいと見る。一方で予想を下回る場合には、雇用の改善を好感したNZドル買いが強まることも考えられる。(川畑)

(予想レンジ:64.20~67.20円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●NZD/JPY 4/29週足引値65.67円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

NZドル/円は4/6に66.71円まで上昇したが、その後も下押しは64.44円に留まり、またバンド幅も縮小に向かうなど、相場はこう着感を強めつつある。現状ではローソク足が20日線を下抜けており、どちらかといえば相場は下値を試す可能性がある。

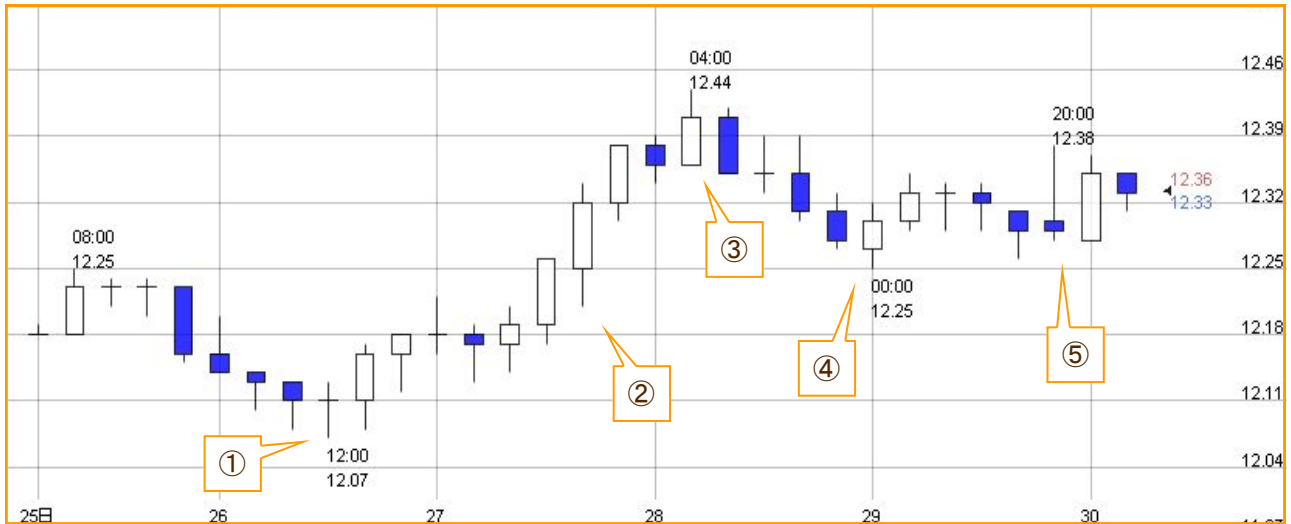
ボリンジャーバンドは4/29現在、上限:66.76円~下限:64.67円と、先週に続きバンド幅は縮小に向かっている。ローソク足が上下どちらかバンドを突破した方に今後の方向感が出ることも予想される。

ローソク足は20日線(4/29時点では65.72円)を下抜けており、上値圧力は強い模様である。ただ60日線(同、62.93円)や200日線(62.50円)は緩やかな上向きのため、一旦はサポートとなるか注目したい。

上値ポイントは①66.71円(4/6高値)、②67.17円(2008年9月安値)、③68.68円(4/29時点での、2009年10月高値69.69円と、2010年5月高値69.34円を結んだ線)であり、下値ポイントは①64.67円(バンド下限)、②64.22円(1/27高値)~62.44円(4/18安値)、③62.93円(60日線)である。(川畑)

## ZAR/JPY

## ランド/円 4/25~29の主な推移



4/26 Tuesday	日経平均株価や原油価格の下落を背景に、ランド/円は一時12.07円まで下落。しかし日経平均株価平均が下げ止まったのを始め、時間外のNYダウ平均先物や原油価格の反発を手掛かりに、ランド/円は反発した(①)。
4/27 Wednesday	格付け会社S&Pが本邦の格付け見通しを従来の「安定的」から「ネガティブ」へと引き下げた事を受けて円売りが強まると、ランド/円はこの円売りをを受けて上昇。また欧州市場にて、発表前に「予想よりも悪い結果になる」との思惑が広がっていた英第1四半期国内総生産(GDP)速報値が予想通りとなった事を受け、ポンド買い・円売りが強まりランド/円は続伸した(②)。
4/28 Thursday	27日深夜、米連邦公開市場委員会(FOMC)が、保有証券の償還資金を米国債の購入に再投資することを継続すると発表し、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長は会見にて、米経済の先行きに対して慎重な見方を示した。市場では米国の緩和的な金融政策が続くとの見方から、NYダウ平均が上昇。連れてランド/円は28日の取引開始直後に12.44円まで上昇した(③)。だが米第1四半期国内総生産(GDP)などが予想を下回り、ドル/円の下げに連れる形で、ランド/円は一時12.25円まで値を下げた(④)。
4/29 Friday	南アフリカ3月貿易収支は10億ランドの黒字と予想(8億ランドの赤字)よりも強い結果となると、ドル/ランドは2007年11月以来の水準に下落(=ランド高)。加えて米国債利回りの上昇によりドル/円が上昇したことも重なり、ランド/円はその後12.38円まで上昇した(⑤)。

## 上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和  
→リスクを取ることに積極性が増す  
→主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・利下げ懸念の後退
- ・本邦及びG7の円売り介入

## 下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念  
→リスクを取ることに消極的になる  
→主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## 今週の見通し

インフレ率の上昇を背景に利下げ観測が大きく後退する中、今週3日、南アフリカでは第1四半期失業率の発表が予定されている。失業率が低下するようだと、ランド/円が買われる場面も予想される。しかし4月20日発表の南ア2月実質小売売上高は予想を大きく下回る結果となったことから、今月12日の政策金利発表の場での利上げを織り込む動きは期待しづらい。それでも、市場ではSARBの次の一手は「利上げ」であるとの見方が強まりそうだ。

そのほか、6日には米4月雇用統計の発表が予定されている。仮に安定的な雇用の増加を示す内容となれば、米雇用の回復期待から株価が上昇し、ランド/円は上値を試す動きが予想される。一方で失業率の上昇など雇用状況の悪化を示す内容となれば、株安からランド/円は弱含む場面も予想される。(川畑)

(予想レンジ:12.10~12.50円)

## テクニカル分析

〔移動平均線〕

20日線

60日線

200日線

〔ボリンジャーバンド〕

+2シグマ

-2シグマ



●ZAR/JPY 4/29週足引値:12.33円 (日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

ランド/円は4/27陽線により20日線を上抜け、ナベ底完成に向かうかに見えた。しかし29日の足形は寄り付きとなり、20日線をわずかに下抜けた。このまま20日線に上値を押し上げられるようだと、相場は反落の可能性も出てくる。

ボリンジャーバンドは4/29現在、上限12.85円～下限:11.78円と、バンド幅が縮小。3月後半からの上昇トレンドが一服した模様である。

ローソク足は20日線(4/29時点では12.34円)が下向きに転じており、上値が重い。ただ60日線(同、11.91円)、200日線(同、11.87円)いずれも上向きであり、下押しの際には攻防の分岐点となりやすそうである。

上値ポイントは①引値レベルで12.34円(20日線)、②12.44円(4/28高値)、③12.53円(4/8高値12.84円～4/18安値11.92円の値幅0.92円の2/3戻し)であり、下値ポイントは①12.13円(4/27安値)、②11.90円前後(4/18安値の他、バンド下限や60日線、200日線が近い)、③11.67円(前述の値幅2.34円の1/2戻し)である。(川畑)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (5/2~5)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/2			<b>ロンドン、香港、南ア休場(メイデー)</b>		
(月)	10:30		(豪)第1四半期住宅価格指数[前期比]	0.7%	-0.5%
	16:15		(スイス)3月実質小売売上高[前年比]	1.5%	--
	16:30		(スイス)4月SVME購買部協会景気指数	59.3	59.8
	23:00	◎	(米)4月ISM製造業景況指数	61.2	59.6
			(米)3月建設支出[前月比]	-1.4%	0.3%
5/3			<b>東京休場(憲法記念日)</b>		
(火)	13:30	○	(豪)RBAキャッシュターゲット	4.75%	4.75%
	17:30	○	(英)4月PMI製造業	57.1	57
	18:00		(ユーロ圏)3月生産者物価指数[前年比]	6.6%	6.5%
	18:30		(南ア)第1四半期失業率	24.0%	--
	23:00		(米)3月製造業受注指数[前月比]	-0.1%	1.5%
5/4			<b>東京休場(みどりの日)</b>		
(水)	07:45		(NZ)3月住宅建設許可[前月比]	-9.7%	--
	17:30	○	(英)4月PMI建設業	56.4	55.4
	17:30		(英)3月消費者信用残高	+8億GBP	+5億GBP
	17:30		(英)3月マネーサプライM4・速報[前年比]	-1.5%	--
	18:00	○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前月比]	-0.1%	0.1%
		○	(ユーロ圏)3月小売売上高[前年比]	0.1%	0.2%
	21:15	◎	(米)4月ADP全国雇用者数	+20.1万人	+20.0万人
	23:00	◎	(米)4月ISM非製造業景況指数	57.3	58
5/5			<b>東京休場(こどもの日)</b>		
(木)	07:45	◎	(NZ)第1四半期失業率	6.8%	6.7%
	10:30	○	(豪)3月小売売上高[前月比]	0.5%	--
	10:30		(豪)3月住宅建設許可件数[前月比]	-7.4%	--
	17:30	○	(英)4月PMIサービス業	57.1	55.8
	19:00		(独)3月製造業受注[前月比]	2.4%	--
	20:00	◎	(英)BOE政策金利発表	0.5%	--
	20:45	◎	(ユーロ圏)欧州中銀金融政策発表	1.3%	--
	21:30	○	(米)4/30までの週の新規失業保険申請件数	--	--
	21:30		(米)第1四半期非農業部門労働生産性[前期比]	2.6%	1.0%
	21:30		(米)第1四半期単位労働費用[前期比]	-0.6%	0.8%
	21:30		(加)3月住宅建設許可[前月比]	9.9%	--
	23:00	○	(加)4月Ivey購買部協会指数	73.2	--

巻末の特記事項を必ずお読みください。



## 経済指標カレンダー (5/6)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
5/6	08:50		(日)4月マネタリーベース[前年比]	16.9%	--
(金)	14:45		(スイス)4月失業率	3.4%	3.3%
	17:30	○	(英)4月生産者物価指数[コア:前年比]	3.0%	3.0%
	19:00		(独)3月鉱工業生産[前月比]	1.6%	--
	20:00	◎	(加)4月失業率	7.7%	7.7%
	20:00	◎	(加)4月雇用ネット変化	-0.15万人	+1.50万人
	21:30	◎	(米)4月非農業部門雇用者数	+21.6万人	+18.0万人
	21:30	◎	(米)4月失業率	8.8%	8.8%
	28:00		(米)3月消費者信用残高	+76.17億USD	+50.00億USD

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com